

巻頭言

「数学教育における生成 AI」

数学部会長 田口 英彦

令和6年度6月に実施されました数学部会総会におきまして、藤崎俊浩先生の後任として第31代部会長を務めることになりました千葉県立船橋法典高等学校長の田口英彦です。微力ではありますが、千葉県高等学校数学教育の発展に向け、誠心誠意努めてまいりますので、御支援・御協力をお願いいたします。

令和6年度の総会・春季研究大会は6月19日（水）に県立茂原高等学校で開催し、会場校の先生方には第2時限を授業公開していただきました。総会では全ての議案が承認されました。講演では、千葉大学准教授の辻山洋介先生に「高等学校数学科における教材研究と授業づくりの視点」という題で、約90分間にわたり御講演いただきました。問題発見・解決の過程に着目した大変有意義なお話でした。

例年、夏季休業中に県教育委員会との共催で開催されています高等学校教育課程研究協議会（数学）も、8月6日（火）に県立千葉女子高等学校の大会議室で開催しました。協議では「各高等学校における諸課題の解決を目指して」と題して、5つのテーマから希望するテーマを事前アンケートにより選んでいただき、それぞれのテーマでグループ協議を実施しました。参加された先生方が勤務校の先生方に協議内容を確実に伝えていただき、生徒の学習改善や教員の指導改善につながることを願っています。

また、今年度の8月の見学研修会では、千葉大学亥鼻キャンパスの医学部を訪問し、医学部説明、講義、大学説明の他、施設見学をさせていただきました。講義「AI／人工知能医学」では、1年次に履修する専門科目「AI 数理科学入門」の講義を受けました。医学研究・医療において数理・データサイエンス・AIの重要性が高まっており、画像、時系列データなど様々なデータの扱いと解析ツールの使い方を実践的に学び、データサイエンスの基本的な考え方を修得することを目指しているそうです。

このように、数学教育とも関連がある分野においてビッグデータや統計解析などと共にAIが重要視されている中で、文部科学省は「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」において「適切でないと考えられる例」「活用が考えられる例」などから生成AIの教育利用の方向性を示しています。今、生成AIは日々発展しており、教員も生徒も数学で利用することが可能であると考え、教員は「正しい生成AIの利用方法」を理解していなければなりません。進学を意識した授業や学び直しを必要とする授業などがある現状を踏まえて利用方法を考えていくことになりますが、今後、数学における生成AIの効果的な利用方法がどのように進化していくかを注視していきたいと思います。このような流れの中で、生成AI利用の危険性も把握しながらになりますが、生徒の主体的な学びを促し、学力向上に効果がある利用方法を生徒に伝えていくためには、数学教育においても教員が生成AIを正しく理解しておく必要があると感じたところです。

最後に、高等学校数学教育の一層の発展と本県数学の指導を担う先生方の益々の御活躍を心より祈念いたします。